



緩和ケア病棟開設30周年を迎えました

石川県済生会金沢病院 副院長
龍澤 泰彦



当院は昨年、現在地である赤土町への移転30周年を迎えました。その際に緩和ケア病棟が作られ、翌年の1月から緩和ケア病棟入院料を算定しており、診療報酬上は今年の1月に開設30周年を迎えたことになります。

本年6月現在、緩和ケア病棟入院料届出受理施設は全国に468施設あります。その約84%にあたる395施設が日本ホスピス緩和ケア協会に加盟しており、その中でも当院は入院料算定開始時期が全国で17番目と、全国的にも歴史のある病棟です。

当院の緩和ケア病棟は、当初年間へのべ入院患者数が80～100人前後でしたが、徐々に増加し、2012年度以降は毎年200人以上、昨年度は239名の入院がありました。ほぼ同じだけ退院患者さんがおられますが、以前は圧倒的に死亡退院される方が多く、特に2006年・2007年度は年間に自宅へ退院される方が2～3名しかおられませんでした（死亡退院率 97.5～98.5%）。その後は年々県内でも在宅医療・訪問看護が充実し、緩和ケア病棟でも患者さんやご家族のご希望をかなえるべく積極的に退院支援も行っていることもあり、昨年度は退院患者234名中、死亡退院は190名（81.2%）で、約2割の方が自宅へ退院あるいは施設入所などとなっています。まだまだ世間一般には十分知られていないかもしれませんが、緩和ケア病棟の施設基準にも、緩和ケア病棟とは苦痛の緩和を必要とするがん患者さんの緩和ケアを行うとともに、「外来や在宅への円滑な移行も支援する病棟」と定められています。決して入ったら二度と出られない病棟ではありません。

緩和ケアの質の向上にも取り組んでいます。院内に緩和医療認定医1名、緩和薬物療法認定薬剤師3名、緩和ケア認定看護師2名が在籍し、日本緩和医療学会から認定研修施設の認定を受けています。エンド・オブ・ライフ・ケアに関する看護師教育プログラムであるELNEC-Jの受講修了者が緩和ケア病棟に11名います。第三者の評価も積極的に受けており、全国的な遺族調査であるJ-HOPE研究にも毎回参加し、病棟で大切な方を亡くされた遺族に対するアンケート結果のフィードバックを受けています。日本ホスピス緩和ケア協会が行っている「緩和ケア病棟における質向上の取り組みに関する認証制度」の認証も受けています。病院機能評価も副機能として緩和ケア病院の認定を2019年から受けています（認定を受けているのは全国で133施設、全国の緩和ケア病棟の1/3以下）。

当院緩和ケア病棟への入院患者さんは、その約8割ががん拠点病院や開業医の先生方からご紹介いただいた方々です。転院はなるべく速やかに、在宅からの緊急の入院依頼はいつでも必ず（土日祝日でも、夜中であっても）お引き受けしています。緩和ケア病棟でどうしても受け入れ困難な時でも、急性期一般病棟で入院をお引き受けしており、病院全体として緩和ケアの体制を整えています。今後ともお気軽にご相談いただけましたら幸甚に存じます。何卒よろしくお願い申し上げます。

メディカルダイエット外来を開設しました

8月より『メディカルダイエット外来』を開設しました。

肥満は生活習慣病や心血管疾患のリスクを高めるだけでなく、関節への負担や、睡眠時無呼吸症候群にもつながる場合があります。

医学的に減量が必要な肥満のある方は、肥満症治療薬が保険診療で使用できるかもしれません。食事療法や運動療法でも十分な効果が得られなかった方、肥満症治療薬を試してみませんか？ 気になる方は当院の各科主治医もしくは内分泌内科へご相談ください。

【主な診療内容】

- 医師による診察および健康チェック
- 管理栄養士による栄養指導
- 必要に応じた内服薬の処方
- 定期的なフォローアップと体重管理のサポート

【診療日】月曜・水曜（予約制）

※注射薬での治療を開始するのに6ヶ月かかります。

※当院では自費での診療は行いません。

メディカル ダイエット外来のご案内

【医学的なアプローチで減量をサポート】

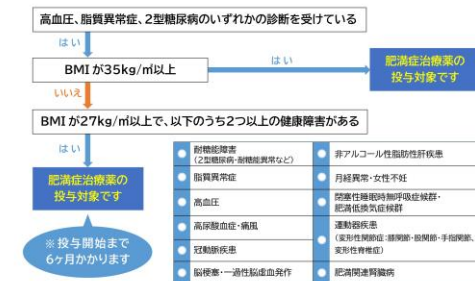
当院では、保険診療にて肥満症治療薬（ワゴビ・ゼップパウンド）を用いた治療が可能です。
「なかなか体重が減らない」「足腰の痛みを気にせず動きたい」「将来の健康が不安」
このような悩みをお持ちの方へ、医学的根拠に基づいた減量サポートをご提供いたします。



【肥満症とは】

肥満症とは、肥満により生活習慣病やその他の合併症のリスクが高まる状態です。特に内臓脂肪の蓄積が健康障害を引き起こす恐れがあります。

肥満症治療薬は、食事療法や運動療法では十分な効果が得られない場合で、以下の条件に該当する患者さまに処方を検討いたします。



【主な診療内容】

- 医師による診察および健康チェック
- 管理栄養士による栄養指導
- 必要に応じた内服薬の処方
- 定期的なフォローアップと体重管理のサポート



診療日：月曜・水曜（予約制）

石川県済生会金沢病院 内科外来
ご予約・お問い合わせ
☎ 076-266-1060（代表）

当院の「医療安全の日」講演会



済生会金沢病院では毎年7月11日を「医療安全の日」と定めて、医療事故の防止に取り組んでいます。

今年は、松任石川中央病院 災害医療対策センター長 兼 石川県災害派遣医療チーム本部長の安間圭一先生から、『急変時の対応～病院職員として何ができるか～』についてご講演いただきました。

職員全員が急変に対応でき、安心安全な医療の提供ができるよう、これからも病院全体で取り組んでまいります。

敷地内の草刈りを行いました



7月19日（土）、職員とその家族30人余りで早朝6時からの草刈りボランティアを実施しました。

敷地内の除草が行き届かず患者さんに心苦しい思いをしていましたが、きれいになって朝からの暑さも吹き飛ばすほど爽快な気持ちになりました。今後も継続して環境整備に努めてまいります。

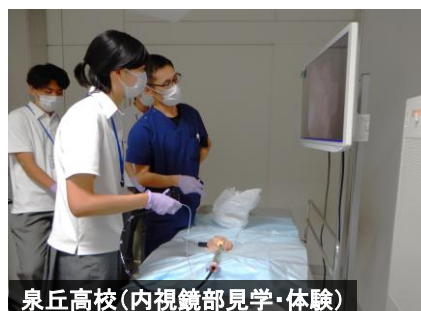


職場体験・インターンシップ

済生会金沢病院では、「次世代の医療人を育てる」をテーマに、毎年、市内の中高生の職場体験・インターンシップの受け入れを行っております。今年は、7月23日に緑中学校(6名)、30日に泉丘高校(8名)、31日に二水高校(9名)の生徒たちが来院しました。

内容として病院見学の他、中学生には手洗い・グリッター体験(手の洗い残しが分かる機械)やベッドメイキングを行い、高校生には手術部で手洗い・縫合・心肺蘇生体験、内視鏡体験などをしてもらいました。

今回の体験で医療職とはどんなものか興味を持ってもらい、将来の進路の一つとして生徒たちの選択肢が増えると嬉しいです。



ふれあい看護体験

7月30日(水)、二水高校の生徒が『ふれあい看護体験』に参加しました。

参加理由は将来医療系の仕事がしたいからとのことで、院内の見学をはじめ、感染認定看護師による正しい手指衛生の方法やPPE着脱体験、患者さんの車いす移送体験、足浴の援助体験などをしてもらいました。足浴では、患者さんから「気持ちいいね。ありがとう」とお言葉をもらい、生徒も患者さんも笑顔になりました。

看護体験をして、生徒からは「医療系の仕事を身近に感じることができました。緩和ケア病棟でお手伝いをして、患者さんに感謝してもらえてとても嬉しかったし、とても良い経験をさせてもらえました」と感想をいただきました。今回のふれあい看護体験が、将来の進路選択・夢の参考になれば嬉しいです。



3A病棟夏祭り

8月21日(木)、緩和ケア病棟にて夏祭りが開催されました。

病棟スタッフは法被を着て、患者さんに夏祭りの定番・かき氷やフランクフルト、人気のポップコーンやフライドポテトを振る舞いました。

カラオケも開催し、最初に病棟医長の龍澤副院長が『青葉城恋唄』を歌い、間奏で患者さんが首飾りをかけてくれるホッポリした場面もありました。

患者さん、そして病棟スタッフからもたくさんの笑顔が見られ、和やかで楽しいイベントとなりました。



フードバンク活動

済生会金沢病院では、夏と冬の年2回、職員から過剰食品を募り、必要な方々に寄贈する『フードバンク』活動を行っています。

7月7日～8月18日の期間に集まった食品36点は、認定NPO法人いしかわフードバンク・ネットへ届けてまいりました。

この活動で、少しでも安心して暮らすことができる地域社会への一助になればと思います。

なでしこ出前健康講座

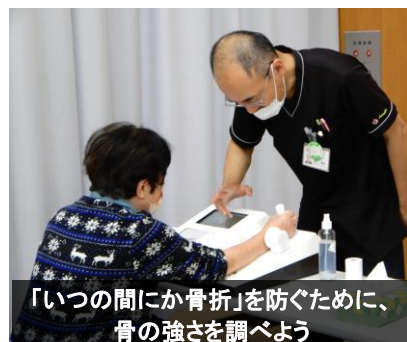
済生会金沢病院では地域貢献の一環として出前健康講座を行っています。当院の医療スタッフが講師として、ご依頼をいただいた公民館・町内会等に出向き、「病気」や「ケガ」などに関する情報提供や、セルフケアに関するレクチャーをしています。



糖尿病について



転倒転落について



「いつの間にか骨折」を防ぐために、骨の強さを調べよう

お知らせ

院内各所に設置してあります公衆電話機は、令和7年10月28日(火)をもって撤去されることとなりました。利用者の皆様には、大変ご不便をお掛けいたしますが、何とぞご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



済生会金沢病院のInstagramでは、イベントや研修会の様子などを発信しています。患者さんや地域の皆さんに、より身近に感じて頂ける情報を発信していきますので、ぜひいいね・フォローをお願いします♪

公式Instagram



SAISEIKAI_KANAZAWA